



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.78
六甲山の生い立ちと阪神
大震災の教訓／髯本 格
2009年9月発行

第78回テーマ： 六甲山の生い立ちと 阪神大震災の教訓



飛松中学校からの六甲山全貌

講演内容

- 六甲山と大阪湾の生い立ち
- 阪神大震災はなぜ起こったか
- 阪神大震災の教訓は何か

実施日：平成21年9月12日（土）
午後1時～3時30分
場 所：六甲山地域福祉センター



講師：髯本 格 さん
プロフィール

1949年(昭和24年)生まれ、59歳、神戸出身。1973年北海道大学理学部地質学鉱物学専攻卒業。地質コンサルタント会社勤務を経て、1976年(昭和51年)から神戸市の中学校に勤務、現在飛松中学校教諭。1987年兵庫教育大学大学院卒業。専門は六甲変動の研究。

初めて六甲山地域福祉センターで開催

当初の日程を1週間早めることになったため、会場は神戸市立六甲山地域福祉センターに変更しました。24名の参加者には適度な広さで快適でした。午後から雨になり視界も悪くなったので、六甲ケーブル山上駅の天覧台から大阪湾を眺望してお話を聞く予定は変更し、室内での講演に集中しました。

六甲山地域福祉センター

阪神大震災が大きく研究を変えた！

講師の髯本格さんは須磨区の神戸市立飛松中学校教諭で理科を教えておられます。飛松中学校は校内に川や雑木林などがあり、環境学習に最適な自然環境を持つ珍しい学校です。また、校舎からは六甲山の全山域が遠望できるのも自慢だとのこと。

髯本さんは神戸市自然研究グループから『神戸の地層を読む』、『アカシ象発掘記』を出版されている地質の専門家です。神戸新聞に3年間にわたって「大地の科学」を連載されています。

講演の冒頭、ガラス棒に力を加える実験で、地震が起こる本質を説明されました。工夫を凝らして難しいと思う地学を分かり易く話されました。熱意のこもった講演に接した皆さんが感銘を受け、基礎学力を高めるという大きな刺激を受けました。



ガラス棒を曲げる実験

世界の歴史に残る都市災害

阪神大震災の直前、1月13日の授業で「地震は必ず起こる」と断言されています。地震後には倒壊した木造家屋を調査された方がいます。それを基に、直下型地震のゆれのすさまじさを説明されました。

神戸市で大地震が起こる可能性の高さは研究者の常識であり、1974年には調査報告が新聞でも大きく報道されました。一方、行政では地震の最大規模を震度5と想定したまちづくりを行いました。「震度6では木造家屋は倒壊する。それを前提とした対策が必要だった」と、市民が報告書を読み解く学力を持たなかった空白の21年間を残念がられました。

六甲山地は100万年かけて隆起し階段状の地形になっています。100万年かけて約1000mの高さになった六甲山にとって、地震は小さな自然現象です。1995年以降は地震の活動期であり、防災拠点の整備、市民が科学を身につけること、住民同士の助け合いが必要になると説明されました。自然とともに生きていく人間の知恵が大切だと強調されました。

市民が科学に強くなろう

活断層の上で暮らしている現実を直視する機会になりました。地質という研究が安全に生活することにつながっており、科学を学ぶ大切さを啓発されました。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

参加の感想 野村 眞一さん

今年の6月30日に埼玉県さいたま市から転勤(生命保険会社)の為引越してきました。今まで山がすぐそばにある生活をしたことがなかったため今回のセミナーに参加しました。



髯本先生のお話は非常にわかりやすく、六甲山の生い立ちがよく理解できました。次は山(地学)をさらに理解するために、先生お勧めの小説「死都日本・石黒耀著」を読んでみたいと思います。

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

イオン環境財団、大阪コミュニティファンド、公益信託自然保護ボランティアファンド、公益信託TaKaRaハーモニストファンド